



第455号 平成28年6月1日

発行所 京都市学校医会

京都市中京区間之町通竹屋町下ル

楠町601-1 こどもみらい館 2階

TEL (075) 256-0351

FAX (075) 241-3568

発行人 林 鐘 声

第67回指定都市学校保健協議会

会 長 林 鐘 声

「生涯を通じて健康でたくましく生きる児童生徒を育成するため、指定都市学校保健関係者が当面する健康・安全の諸問題を研究協議し、学校保健の進展を図る」を趣旨とする上記協議会が5月29日(日)、静岡市学校保健会・静岡市教育委員会の主催で開催されました。20指定都市から各一題、4分科会に別れて協議が行なわれ、京都市からは京都市学校眼科医(下京中学校)の新井真理先生が、「京都市における色覚異常への対応」と題して発表されました。恒例の記念講演は歴史学者の小和田哲男氏による「今川義元のもとでたくましく育った徳川家康」でした。

これに先立つ28日(土)には静岡市静岡医師会主催で学校医研修会が企画され、私達8人(林・竹内・井本・杉本・長村・奥村・鈴木・新井)が出席しました。研修講演Ⅰの静岡県立総合病院耳鼻咽喉科部長、高木明先生による「難聴と言語発達」は人工内耳の治療成績に目を見張らせるものがありました。研修講演Ⅱの日本眼科医会学校保健委員会、静岡市静岡医師会、学校医・園医委員会委員の松久充子先生による「見える・わかる・理解される子どもを育てるお手伝い」は3歳児の眼科検診の取り組み、今後の課題についての精力的な活動報告でした。その後、静岡県立こども病院小児集中治療センター長の川崎達也先生による「学校の事件簿」が特別講演として当日の最後の締めとなりました。

今回の協議会並びに学校医研修会は堺市において平成29年5月20日(土)、21日(日)に開催予定となっています。

今回の協議会の分科会の内容など各講演会については、分担して今月号、来月号で報告いたします。

私の分担は特別講演(学校の事件簿)ですので少し触れておきます。

2009年より静岡こども病院のPICU(こどもの集中治療室)に勤務する医師からの発表であり、学校との接点の少ない経歴であったことから、講演が始まる時にはタイトルから期待する内容にはならないことはすぐに判りました。静岡市の重篤な例は最終医療機関であるこの病院へ搬送されているようです。この病院へ運ばれた学校での発症事例は2009年からの7年間で墜落やスポーツ外傷などの外因性のものが11件、痙攣や心肺停止などの内因性が13件でした。うち、特発性心室細動、滑り台からの墜落による肝裂傷、屋上からの落下の頭頸部外傷の3件の事例を提示し、bystander CPRやvital signの確認などの病院前救護の初動が最重要としていました。受け入れ側医師の立場としては当然の主張です。一方、学校現場で考えてみると、その教育、実技については未だ十分に組織だって出来ていない現状ではないでしょうか。続いて、学校における頭頸部外傷について文献的に示し、コンタクトスポーツ、とくに柔道、ラグビーがその頻度、重症度が高いことを重ねて強調していました。重篤なものでないと見なしがちな脳振盪については、決して一過性のものでなく続発する障害を惹起する危険性のあることを示し、厳格に安静を守らせ、運動や競技復帰には長い日数を要することを私達に伝えました、ラグビーで倒れた選手に「魔法のヤカン」で気付けを行い、競技を続行させることは、もっての他ということです。このようなことを今後も慣例として行くと、それこそ「学校の事件簿」として、取り上げられることになるのは間違いないようですので、ご注意下さい。

新任校医挨拶



若林 寛二
(大宅中学校)

平成28年4月より大宅中学校の学校医をさせていただくことになりました。大学卒業後、内科、消化器内科で勤務後、平成26年4月からは山科区で父の診療所を引き継ぎ、平成27年1月より若林診療所院長として、地域の医療に従事しております。少子高齢化が急速に進展し、次世代を担う子供たちの健康で健全な成長が今まで以上に求められ、同年代の子をもつ親としても責任を感じております。これまでは成人、特に高齢者の診療を行うことがほとんどで、本年度より運動器検診も始まり、学校医としては全くの素人ではありますが、今後必要な知識を勉強し、経験不足を補っていくよう努力していく所存です。よろしく御指導賜りますようお願い申し上げます。



松崎 恒一
(榎原小学校)

平成28年4月より榎原小学校の校医をさせて頂く事になりました。昨年私は、西京区桂で山口医院を継承する形で、まっつき内科クリニックを開院しました。

私が生まれた富山県の山間集落にある小学校は、入学した50年前4クラスでしたが、過疎・高齢化のため現在1学年1クラスと生徒が激減しています。一方、榎原小学校は、ここ数年生徒数は横ばいで、4月に検診で登校した際も、生徒さんのはつらつとした声が聞こえました。やはり子供の数が少なく、元気がないと地域全体に活気がなくなると感じられます。

私は校医として、養護教諭の方々と協力し、子供たちの健康・成長を助けることで、地域医療に貢献いたします。今後とも、ご指導、ご鞭撻の程、どうぞ宜しくお願い申し上げます。



田中 愛子
(開晴中学校)

平成28年4月より京都市立開晴中学校の校医をさせて頂くこととなりました田中愛子と申します。平成11年に旭川医科大学を卒業し、滋賀医科大学消化器血液内科に入局いたしました。長年整形外科開業医をしておりました父が高齢になったこともあり平成26年に自宅である東山区で内科を開業し、地域医療に従事するよう奮闘開始したばかりです。学校医という仕事も初めてで皆様にお教えることもたびたびありますが宜しくお願いいたします。



正木 淳
(朱雀第四小学校)

平成28年4月より、京都市立朱雀第四小学校の学校医をさせていただくことになりました、正木 淳と申します。

平成15年より、中京区西部にて父の後を継ぎ、現在「正木医院」の院長として診療に従事しております。

学校医は初めてで、至らぬ所も多々あるとは存じますが、児童及び教職員の皆様の健康を維持してゆくことができるよう精一杯努めて参りたいと考えております。今後とも、ご指導、ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。



舟木 亮
(柏野小学校)

私立の幼稚園・学校の校医・産業医を嘱託されている関係で、学校医会には平素からお世話になりありがとうございます。この度、前任の先生の退任に伴い、同じ西陣医師会の嘉・乾・柏・楽班の中から、平成27年度後半より会長からご指名があり、定年までお引き受けさせていただきました。28年度からは内科検診に加え整形外科検診も加わりこれから学校医を引き受けてくださる先生に増々負担が重なり、辞める先生が増えるのを危惧しております。

第67回指定都市学校保健協議会 午前の部

福西小学校校医 奥村正治

指定都市学校保健協議会は、平成28年5月29日(日)一日のプログラムである。静岡県コンベンションアーツセンター「グランシップ」で行なわれた。

1. 趣旨

生涯を通じて健康でたくましく生きる児童生徒を育成するため、指定都市学校保健関係者が当面する健康・安全の諸問題を研究協議し、学校保健の進展を図る。

2. 主催

静岡市学校保健会・静岡市教育委員会

3. 主催

公益財団法人 日本学校保健会

4. 後援

文部科学省

5. 主題

「たくましくしなやかな子どもたちの育成を目指した学校保健の推進」

この様な形で、全国20都市の政令指定都市から約400数十名の方々が集まれ、京都からは22名が参加した。

県の建物であった為か？午前9:00から受付となっていたので、9:00までは玄関で「待って下さい」という堅苦しいスタートであった。

形どおりの開会式や、全体協議と進んで行き、午前中は記念講演、お昼はランチョンセミナー、午後は課題別協議会のプログラムである。私は午前の記念講演を皆様にお知らせし、午後の部の課題別は他の先生方をお願いという事になっています。

記念講演は、歴史の事が好きな先生方には「あーあ、あの先生のお話し」と言う事になるのであろう。歴史学者・静岡大学名誉教授の小和田哲男先生のお話しである。演題は、静岡おひぎ元の人物と言えは、徳川家康になる。その幼少時代と言うか、8歳から15歳頃までのお話しが中心でした。「今川義元のもとでたくましく育った徳川家康」のお題です。高校時代歴史は日本史か世界史かで選択科目になり、漢字の多い日本史は取りませんでした。大学医学部では、皆さんも同様と思いますが、歴史の科目はなかつ

たと思います。故、中学時代の歴史観しかない者が文にしました。間違っている点もあろうかと思えます。お許し下さい。

1. 今川の人質になっていたが優遇された生活でした。幼少時代は松平竹千代と言い、今川義元より腹巻を贈られたとなっているが、腹巻はよろいの事である。人質に贈り物をすると言う事は、義元が人質とは言え、竹千代を価値ある人物と見ていた様である。元服の時に義元より一字が竹千代に与えられた。又、義元の姪を家康は娶っており、今川家の一門待遇であった。

2. 幼少時代の教師は、今川義元の軍師、雪斎から教えを受けた。雪斎は第34世の妙心寺の和尚さんでもあり、「四書」「五経」「武経七書」などが教科書になった。雪斎からの教えの中から、エピソードが二つあり、その一つは、安倍川石合戦の勝者を予言した。その理由は、人数の少ない方が勝者になったが、結束力があつたからと言っている。その後の家康の戦術の基本にもなっている。二つ目は、家康の一番の趣味が鷹狩りであったが、ある時ここで鷹狩りをしようと思った場所が、お寺であった。その時のお寺の和尚等膳和尚は、「寺の境内での鷹狩りはだめ」と言われたが、お寺の意味も家康は心得ており、中止したというエピソードである。

3. 今川文化に家康もなじんでいた。と言うのは、家康は出版物を出している。これも軍師雪斎が本を出版していたのを幼少時代に見ていた為と思われる。もう一つは能の奨励であるが、今川家の流れを組んでいる。家康の基礎は、この幼少時代に作られたと言っても過言ではないでしょう。

4. 最後に静岡駿府城に家康は住んでいるが、家康にとって①江戸と違い、駿府はふるさとである、②冬があたたかい、③お米がおいしい、④川と山で駿府は守られている。敵がせめにくい、⑤参勤交代は確立していないが、江戸に行く時には、ほとんどの大名達は駿府を通る。この5項目が家康が駿府を好んだ理由だと結ばれた。

第67回指定都市学校保健協議会 学校医研修会

耳鼻咽喉科専門医会理事 鈴木 由一

第67回指定都市学校保健協議会 学校医研修会が平成28年5月28日(土)、午後4時からホテルアソシア静岡にて開催された。京都からは林 鐘声京都市学校医会会長以下7名が参加した。

学校医研修会、研修講演Iとして静岡県立総合病院福院長、耳鼻咽喉科部長の高木 明先生が「難聴と言語発達」と題して講演されました。

その要旨はまず耳の解剖学的な仕組み、乳幼児の難聴と成人の難聴の違い、新生児の難聴の検査方法

を説明されたのち補聴器や人工内耳の装用は難聴を早期に発見して可及的速やかに始めた方が効果は大であると力説された。そしてそのすばらしい結果が得られた症例をビデオで供覧された。

今は聾であっても適切な時期に適切な聴覚刺激を与えれば話せる時代になってきている、とのことである。最後に静岡県の人工内耳装用児の現状についても話をされて講演が終了した。

第2回 常任理事会

平成28年6月4日
於 事務局

出席者 林会長、竹内・井本副会長、杉本専務理事、山内・川勝・西村各常任理事、佐野眼科学校医会副会長、鈴木耳鼻咽喉科専門医会理事、奥村副議長、長村監事

・会長挨拶

<報告事項>

1. 色覚相談 5/10, 5/17, 5/24, 5/31
2. 精神衛生研究会 5/12
3. 京都市中学校春季総合体育大会
ラグビーフットボール種目 5/22
於：京都市宝ヶ池球技場 生田篤也先生
4. 第67回指定都市学校保健協議会 学校医研修会
5/28 於：静岡市
5. 第67回指定都市学校保健協議会 5/29
於：静岡市
6. その他

<協議事項>

1. 平成28年度 京都市教育委員会との懇談会・校園長会との懇談会 協議内容について
2. 平成28年度 ツベルクリン反応検査出務医について

3. 平成29年度 総会 日程について 4/15
4. 感染性胃腸炎食中毒の集団発生時の対応について
5. 平成28年度 京都市学校保健会理事会評議員会、新旧会長歓送迎会について 6/14
6. 第38回 近畿学校保健連絡協議会
出務について 7/21 於：滋賀県大津市
7. その他

<関連学会・各種協議>

1. 下京支部会 6/4 於：木乃婦
2. 色覚相談 6/7, 6/14, 6/32, 6/28
3. 精神衛生研究会 6/9
4. 三師会 6/11 於：大安苑
5. 平成28年度 京都市学校保健会理事会評議員会
6/14 於：新・都ホテル
及び第1回企画委員会、第1回広報委員会、
第1回研究委員会、第1回表彰委員会
6. ツベルクリン反応検査
接種 6/15～, 判定 6/17～ 於：各会場
7. アレルギー相談 6/23
8. 京都市教育委員会との懇談会 6/25
17:30～ 於：エヴァンタイユ
9. 第3回 常任理事会 7/2 13:30～
10. 京都市学校医会研修会 7/2 15:30～
於：こどもみらい館
「今、学校に求められる“いじめ問題”の
理解と対応」 新井 肇 先生
11. その他